

令和6年度 豊富小学校 学校評価（自己評価）

中央市立豊富小学校

I 実施について

1 ねらい

- ・教育活動の点検と改善課題を明らかにし、今後の学校経営や運営に生かす。

2 実施時期

- ・保護者・教職員 11月1日（金）～11月12日（火）
- ・児童 11月5日（火）～11月15日（金）

3 評価項目（本年度の努力目標に基づいて）

- （1）学校運営（経営）～組織的対応で経営方針が教育活動の中に実現する。
（学校評価の学校経営の領域No.1～No.4）
- （2）学習指導～学ぶ楽しさ、わかる・できる喜びが味わえる授業を創造する。
（学校評価の教科指導の領域No.5～No.10）
- （3）生活指導～生活指導の充実を図り、心通い合う居心地の良い学級・学年づくりに努める。
（学校評価の生徒指導の領域No.11～No.15）
- （4）特別活動・その他～まごころをはぐくみ、しなやかな心の育成に努める。
（学校評価の特別活動の領域No.16～No.20）

4 回答率

- ・保護者 81%
- ・教職員 100%
- ・児童 97%

5 評価の観点（4観点）

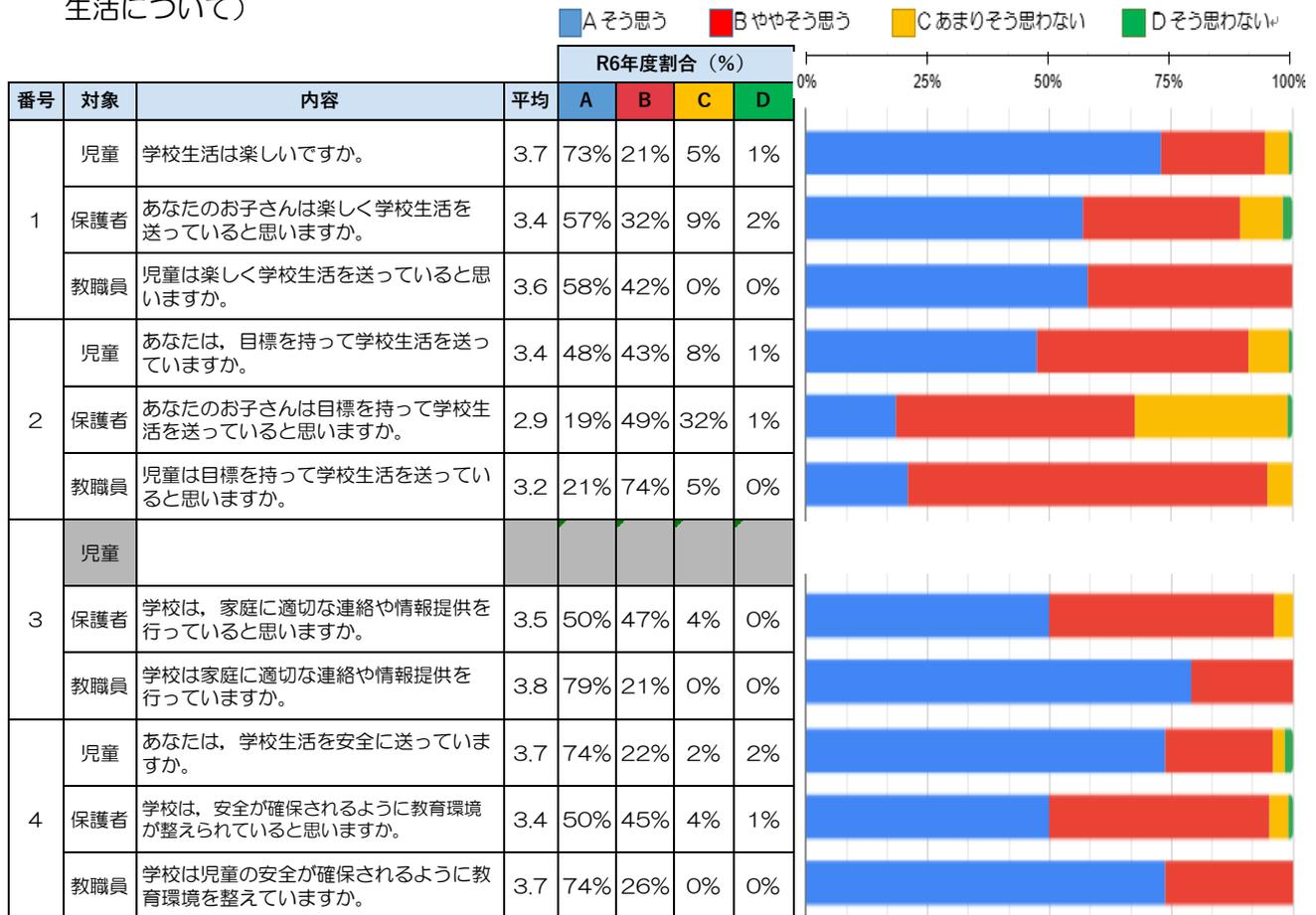
 A そう思う  B ややそう思う  C あまりそう思わない  D そう思わない

※肯定的評価（A そう思う、B ややそう思う）、

否定的評価（C あまりそう思わない、D そう思わない）

Ⅱ 領域別項目の回答状況と考察・改善策

1 学校経営 (1)楽しい学校生活 (2)目標をもった学校生活 (3)学校からの情報提供 (4)安全な学校生活について)



考察

ほとんどの項目で、肯定的な回答(A・B)が85%を超えており、楽しい学校生活、目標をもった学校生活、学校からの情報提供、安全な学校生活等、学校経営は良好であるといえる。

1)楽しい学校生活については、肯定的な回答が児童、保護者ともに高く、全体的には児童は楽しく学校生活を送っている。しかし、「あまりそう思わない」・「そう思わない」と回答している児童も6%いることを重く受け止め、その原因の追究や今後さらに楽しい学校生活づくりに取り組んでいく必要がある。

2)目標をもった学校生活については、肯定的な回答が児童は91%、教職員は95%であるのに対し、保護者は68%であった。保護者に児童の学校での様子を学校だよりや学年だよりを通して伝えるようにするとともに、学校生活全般に児童が目標をもって生活していけるよう引き続き取り組んでいく必要がある。

3)学校からの情報提供、4)安全な学校生活の項目については、三者とも肯定的な回答が90%以上と高く、家庭への適切な連絡や情報提供、安全な教育環境の整備ができていると評価できる。

改善策

・学級集団づくりの充実、授業改善、児童が主体的に取り組める行事の工夫等を通して、より楽しく充実

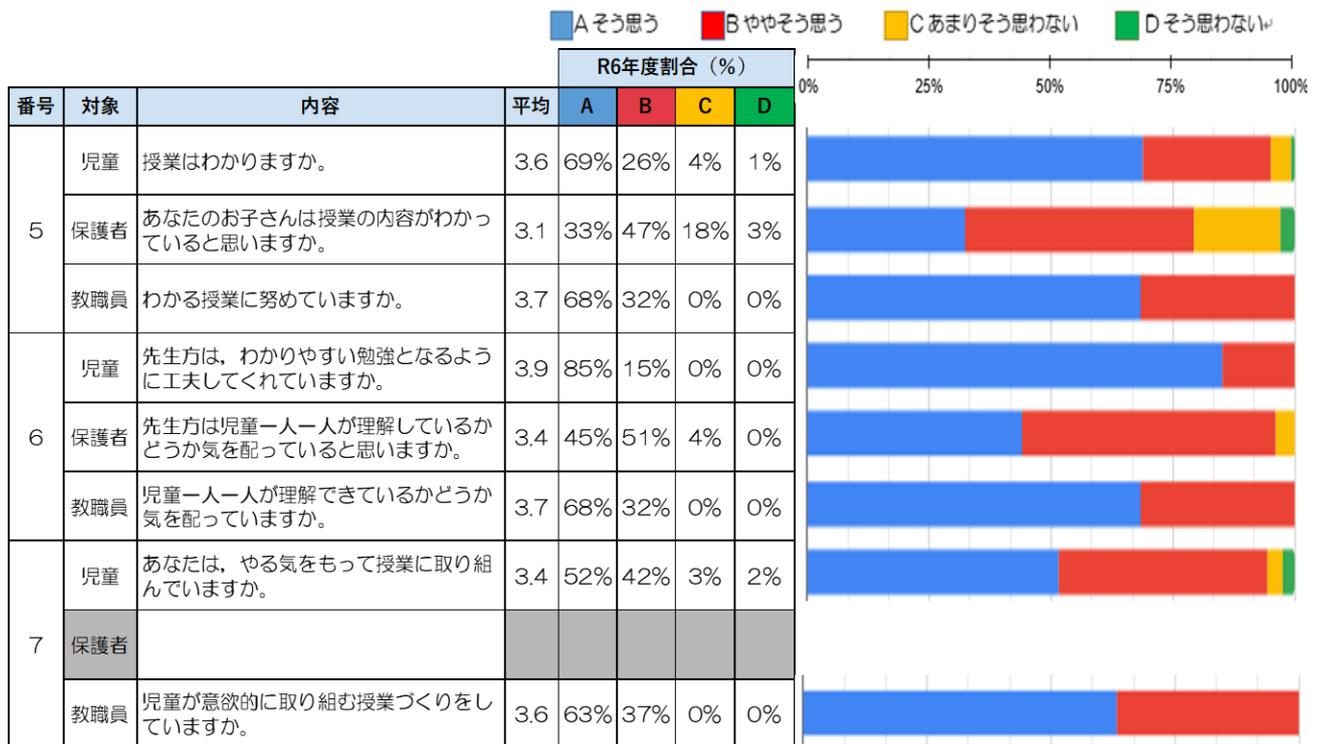
した学校生活となるように取り組んでいく。

- 一日の生活や行事，授業でめあてをもたせ，振り返りを行うことにより，児童が目的をもって主体的に生活できるよう意識付ける。行事や学期の節目に自分の取り組み方や生き方を考えるキャリアパスポートを有効に活用していく。
- 今後も連絡帳や電話で家庭と連絡を密にとり，お便り，安心メールで，適切な連絡や情報提供に努めていく。

II 教科指導

(その1)

⑤わかる授業について ⑥学習の理解度について ⑦学習に対する意欲について



考察

⑤わかる授業についての項目では，児童や教職員の90%以上が肯定的回答と回答している。また，保護者は80%で，若干ポイントが下がるが肯定的な評価を得た。しかし，児童の中には「あまりわからない」「わからない」と答えている児童もいることを重く受け止めて，引き続き児童が「わかった」と実感できる授業づくり，きめ細やかな指導に取り組んでいきたい。

⑥学習の理解度についての項は，児童と保護者・教職員では，若干質問項目が違っている設問である。三者とも肯定的な回答が90%以上であることから，各教員が児童一人一人の学習の理解度を把握しながら，わかりやすい授業や個々の児童へのフォローに努めていることがわかる。

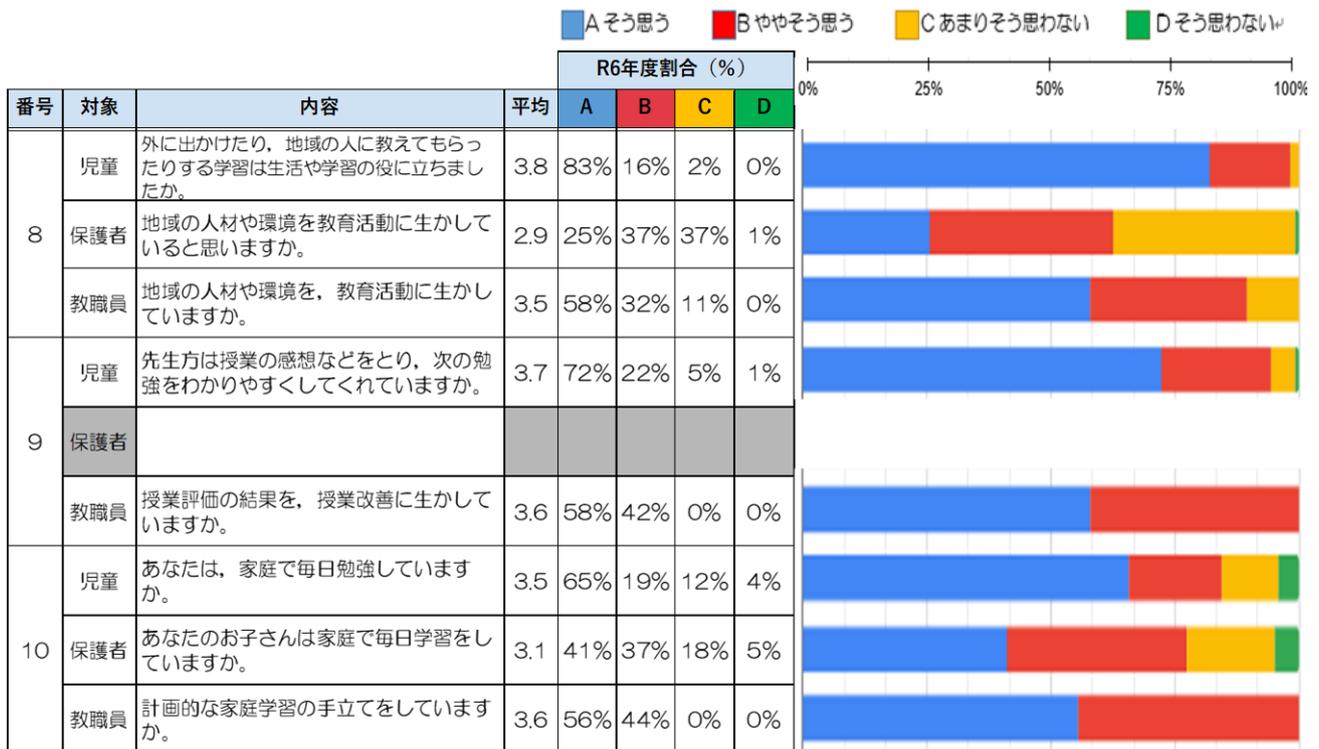
⑦学習に対する意欲については，児童と教職員のための項目であるが，どちらも90%以上が肯定的な回答と良好な結果である。さらに，すべての児童が意欲的に取り組む授業づくりに向けて努力していきたい。

改善策

- ・校内研究を中心にさらに授業改善を進め、ICT も活用しながら、個別の学習での学習状況の見取りや支援と、ペアやグループを活用した学び合いを効果的に行い、学ぶ楽しさを実感させる。
- ・必要に応じて、休み時間等に学習支援を行い、家庭とも連携しながら学習の定着を目指す。

(その2)

8 地域の教育資源について 9 授業評価を活用した授業改善について 10 家庭学習について



考察

8 地域の教育資源についての項目は、児童も教職員も90%が肯定的な回答で、コロナ禍後の地域の見学や地域の方を招いての学習が順調に回復してきていることがうかがえる。保護者は62%で、もう少し地域教材や地域人材を活用することを望んでいることがわかる。学習発表集会前に学校評価アンケートに回答してくれた保護者が多かったことも影響していると考えられるが、地域に開かれた学校として、地域人材の活用や地域教材の学習を効果的に進めていく必要があると考える。

9 授業評価を活用した授業改善については、児童、教職員だけの項目であったが、両者とも肯定的な回答が90%以上であり、良好な結果となった。6の項目とも関連しているので、今後も授業評価を適切に行い、次の授業の改善に生かしていきたい。

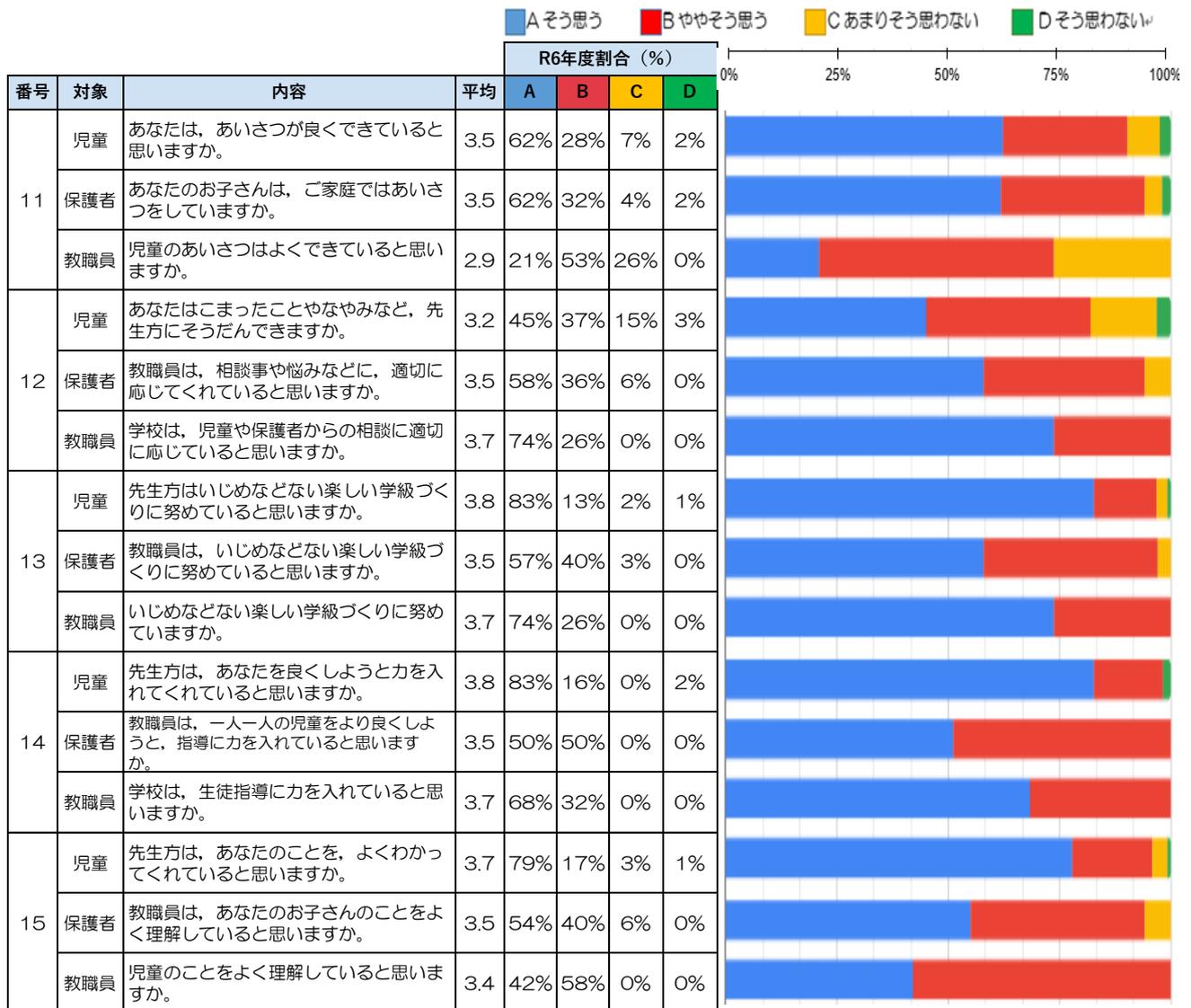
10 家庭学習についての項目では、児童・保護者とも、他の項目に比べ「あまりそう思わない」・「そう思わない」の回答が多い結果となった。家庭学習の手引きや家庭学習取組週間、日常の自学の推進等、学校からの働きかけで、家庭学習への児童の意識は高まってきた一方で、家庭学習の習慣がつきにくい児童や、家庭での指導の難しさを感じている保護者も一定数いることが分かる。引き続き家庭学習の推進を図っていく必要がある。

改善策

- 学校運営協議会などを通して、地域人材や地域教材の情報を得る。教育課程に地域と関連した学習を位置づけ、地域人材の活用や体験的な活動を行う学校・学年便りで地域学習の様子を積極的に知らせる。
- 互いの自学の取組を紹介し合ったり、家庭学習と授業を関連づけたりする。家庭によりばらつきがあるようなので、家庭と連携し、家庭の協力が得られるようにしていく。

Ⅲ 生徒指導

- 11 あいさつについて 12 相談や悩みへの対応について 13 いじめに対する取り組みについて
14 個に応じた生徒指導について 15 児童理解について



考察

13 いじめに対する取り組み、14 個に応じた生徒指導、15 児童理解についての項目は、三者とも肯定的な回答が90%以上となり、本校の意識している児童に寄り添った指導や居心地の良い学級集団づくりの成果が表れたと考える。今後も全教職員で児童理解と生徒指導に取り組んでいきたい。

一方、11 あいさつについては、児童や保護者は90%以上が肯定的な回答である。しかし、教職員は

課題があると考えている割合が多い。教師側の考える「あいさつ」と児童や保護者の考える「あいさつ」の捉え方にずれがあると考え。自分から進んでできるあいさつ、相手に伝わるあいさつ、場に応じたあいさつができるように学校と家庭で一緒に指導していく必要がある。

また、**12**相談や悩みへの対応についての項目では、肯定的な回答が保護者・教職員ともに90%以上であるが、児童は82%であった。先生に何でも話せる雰囲気づくりや信頼感を育む学級経営をさらに進めていくとともに、教職員から進んで声を掛けたりしていきたい。

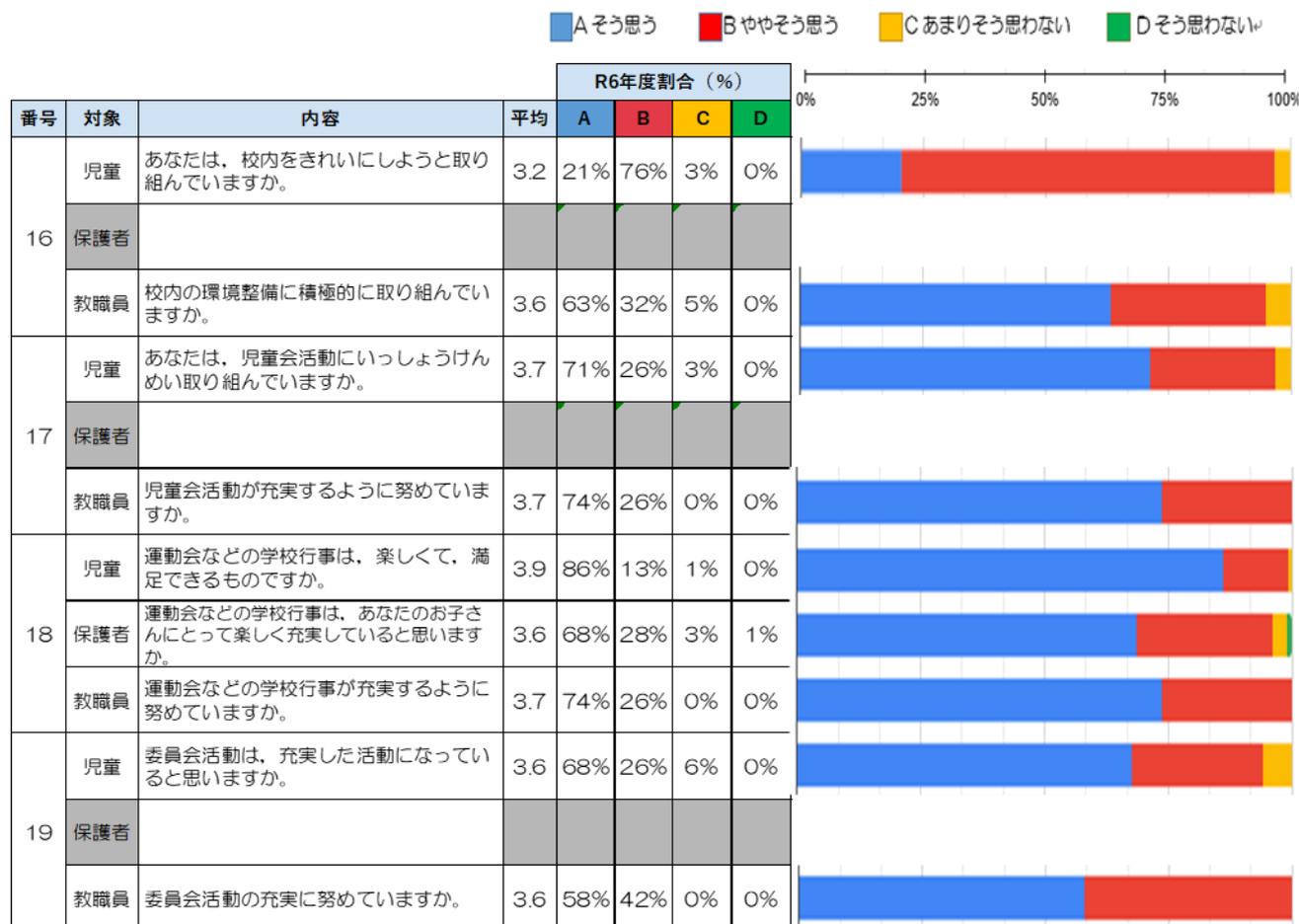
改善策

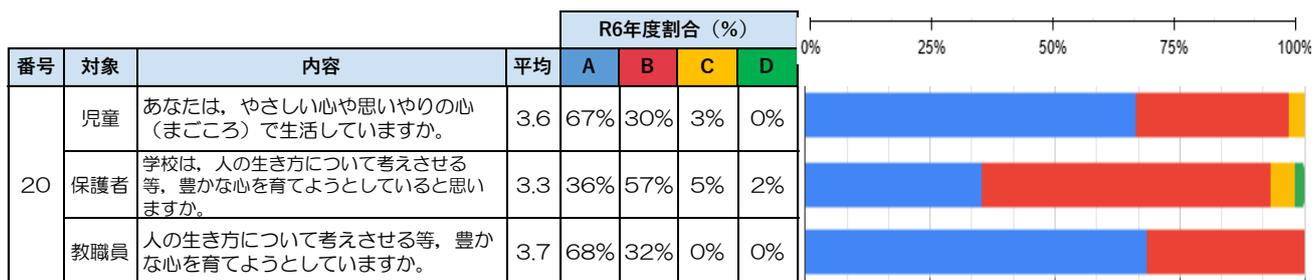
- ・児童が学校や地域で気持ちのよいあいさつができるよう、日頃から声を掛けていく。まずは、大人からあいさつをし、何か一言声を掛けることで、児童との心の交流を図り、自然にあいさつがでてくるようにする。また、場面に応じたあいさつについても引き続き指導していく。
- ・児童会等の「あいさつ運動」の充実を図る。
- ・日頃から教師が児童を細かく観察し、小さな変化に気づき、声を掛けていく。担任だけでなく、学校のすべての教職員で、目をかけ、声を掛け、いつでも相談にのれるようにしておく。
- ・毎日の記録「心の健康観察」やアンケートを通し、児童の悩みをキャッチしていく。

IV 特別活動・その他

16環境整備活動について **17**児童会活動について **18**学校行事について

19委員会活動について **20**豊かな心の育成について





考察

全ての項目において、三者とも肯定的な回答が90%以上と大変良好である。教職員と児童が協力して校内の環境整備が適切に行われ、児童会活動や学校行事、委員会活動も充実したものになっていることがうかがわれる。特に、児童会活動や学校行事、委員会活動は、児童が主役となって活躍している様子がわかる。

また、**20**豊かな心の育成の項目でも、中央市のめざす「まごころ」教育の実現に向けて、着実に成果を上げていることが分かる。

改善策

- ・引き続き「無言清掃」や「たてわり清掃」などの取組を行い、清掃活動に集中して取り組んだり、自校の環境美化に進んで取り組めるようにしていく。
- ・学校行事については、めざす児童の姿を明らかにしながら、絶えず工夫・改善を行い、限られた時間でも充実し、全校児童が成長できる行事としていく。
- ・児童会活動や委員会活動についても、児童と教師で話し合いを重ねながら、今後も児童が主体となる充実した内容へと工夫を図っていく。
- ・道徳の授業の充実を図り、さらに日常生活での実践力の向上につなげていく。また、「キャリア教育」の視点を持ち、外部講師や地域人材から学びことで、よりよい「生き方」について考えさせる機会とする。

保護者からのコメントへの学校としての対応及び見解

全体に関わることとして、以下の3点について回答いたします。

○「命を守る上で必要な、交通事故防止教育や、犯罪から身を守る各種訓練を充実させてほしい。警察官を招き実際に訓練、シミュレーションして学ばせてほしい。」とのご意見をいただきました。ありがとうございます。今年度は、警察官等を招き、1年生への交通安全教室や1～4年生防犯教室（不審者に声を掛けられた時の対応）、5・6年生防犯教室（SNSの危険性）、職員の不審者対応訓練を実施しております。また、集会や集団下校、各教室での指導で交通安全指導や自転車の乗り方、不審者への対応など繰り返し指導を行っております。今後も児童の命を守るために繰り返し指導を行い、児童の対応力を高めてまいりたいと思います。また、児童向けの刃物を持った不審者侵入訓練なども今後検討してまいりたいと思います。

○「暑いので運動会の時期を検討してほしい。」とのご意見をいただきました。10月以降は修学旅行や陸上記録会、学習発表集会など行事が目白押しで取組が難しいため、中央市の他の多くの小学校と同様、来年は5月末に実施することで既にPTA 常任委員会でご了承いただいております。1学期の実施なので、新1年生や他の学年にも進級して無理の無いように内容も検討してまいります。ご協力をお願いいたします。

○「自分達が使う所は自分達できれいにする、協力してくれる大人の姿をみせることの教育効果を考え、PTA 環境整備作業に子どもも一緒に参加は難しいでしょうか。」というご提案をいただきました。ありがとうございました。児童も愛校作業を行っていますが、大人と一緒に行う効果も十分あると思います。来年に向け、学年の発達段階、人数等も考えながら、児童の参加について検討してまいりたいと思います。ちなみに来年は、5月の運動会前（ボランティアを募り実施）と夏季休業中の8月の2回の環境整備作業の協力をお願いしたいと考えております。その際は、よろしく願いいたします。